

東日本大震災から早くも二年が経ちました。このブログでも何度か取り上げてきましたが、2011年7月から9月にかけて文化庁の主導による「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」、いわゆる「文化財レスキュー事業」に、当館からも複数の学芸員が参加して被災した美術作品の応急処置等の作業にあたりました（参照：文化財レスキュー 一参加学芸員からの報告）。

その時処置された作品たちは、いまどうなっているのでしょうか？実は、今年の2月から先月4/14まで、岩手県立美術館で「特集：救出された絵画たち—陸前高田市立博物館コレクションから—」という展覧会が開催されていました（開催中にこの記事がアップできたらよかったのですが...）。この展覧会は、震災でとりわけ甚大な被害を受けた陸前高田市立博物館のコレクションのなかから、応急処置の完了した作品の一部を紹介するというものです。レスキュー活動の拠点となったのは、中津川沿いの旧岩手県衛生研究所。作品保全の観点から、作業当時はこの拠点の名称や場所は非公開とされていたので、レスキュー参加者は「盛岡ラボ」と呼んでいました。





幅広いジャンルにわたる同館のコレクションのうち、油彩画、版画、イラスト、書などの美術作品は150点強ありました。応急処置を済ませたそれらの作品は、現在は岩手県立美術館に保管されています。いずれの作品も、未だ完全とは呼べない状態ではありますが、レスキュー活動が一段落したこともあり、作品の現状とレスキュー活動の結果を報告するというかたちで、この展示は企画されました。岩手県立美術館さんのブログで、この展示について館長や担当の学芸員の方が思いを綴られています。作業当初は描いた作家の名前も分からないままに処置した作品たちが、キャプションを添えられてスポットライトを浴びている姿を見ると、とても感慨深いものがあります。



レスキュー活動は一段落したとはいえ、作品の本格的な修復はまだまだこれからです。そこには当然お金をどこから捻出するのか、作品は今後どこで保管するのかなど、多くの問題が山積しています。「文化財レスキュー事業」そのものは発展的解消をして、今後は「被災ミュージアム再興事業」として、修復や元の所蔵先への返却等を行うこととなります（参照：文化庁 - 「文化財レスキュー事業の発展的解消について～2年間の活動への御礼と今後の展望～」）。

(KS)